施 餓 鬼 会

 五如来をご本尊として、飢え渇きに苦しむ精霊（餓鬼）を供養し、仏の世界に導く法会。自他、功徳広大、先祖供養。

南無 如来　 （慳貪の業を除きて、福智円満ならん）

南無 如来　 （醜陋の形を破り、相好を円満にせん）

南無 如来　 （法を身心に灌ぎ、快楽を受けしめん）

南無 如来　 （咽喉は広大し、飲食受用せん）

南無 如来　 （恐怖悉く除き、餓鬼趣より離れん）

のうまく　さらばー　たたぎゃたー　ばろうきてい　おん

さんばら　さんばら　うん

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　

如来

　餓鬼には富と充足を、私には少欲知足の心を

如来

　餓鬼には美しい身体と衣服を、私には仏道を歩める健康を

如来

　餓鬼には美味なる飲食を、私には甘露の法味を

如来

　餓鬼には広く大きな喉を、私には広く物ごとを受け入れる心を

如来

　餓鬼には苦の世界から離れる勇気を、私には怖れのない開かれた心を

施しを妨げる心の問題

「自分は無力である」

　・これは社会の問題だ。自分一人が施しをしても、何も解決しない。

　・偽善的になりたくない。自分はそのように表に立つ人間ではない。

「自業自得である」

・困っている人自身にも原因がある。まず自力で窮地から抜け出すべきだ。

・助けの手を差し伸べることは、本人のためにも良くない。

　（実は、自分も餓鬼として生きていた時に施しによって救われた）

布施行は、慳貪の心、自己中心の心を除き，少欲知足の心を養う仏教の基本徳目である

三施＝財施・法施・無畏施